

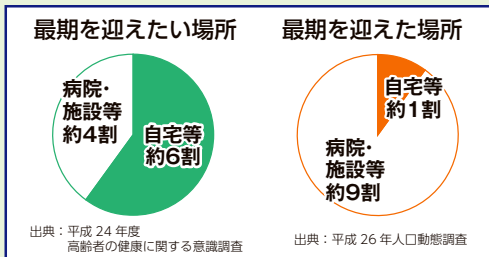
超高齢社会に突入し、一宮市の高齢者も増え続けており、高齢化率は 25%を超えました。  
 高齢になっても、自分らしい生活を実現していくために、切っても切り離せないのが「医療」と「介護」の問題。これらの問題に対する一宮市の取り組みについて、市役所の担当者からお話をうかがいました。

住み慣れた地域や家庭で、いつまでも自分らしい暮らしを続けたいと考えている人が多いにも関わらず、なかなか実現されていない現状があるようです。

そんな“想い”と“現実”のズレを解消すべく、在宅療養生活を実現可能な選択肢の 1 つとして捉えてもらえるよう、在宅医療・介護連携についての普及啓発を推進してられるとのことでした。

一宮市では在宅医療・介護連携推進に向け、市と医師会が連携し、相談窓口を開設するとともに医療・介護関係者に向けた多職種連携研修や情報共有の支援、施設利用にあたっての診断書の書式の統一など、市民の皆様に向けた様々な取り組みが展開されています。

- 出前講座「そこが知りたい在宅医療」の開催 今年度 46 回開催予定
- 在宅医療や介護に関する市民フォーラムの開催 昨年度は 3 月に開催
- 相談窓口の開設
- 在宅医療・介護連携のしくみを紹介するパンフレットの作成 など



## 現場レポート

### 自宅でお父様の看取りをされた H さんにお話をうかがいました

ご両親と離れて暮らしておられた H さん。要介護状態であったお父様が骨折して車椅子での生活となり、お母様だけでは介護は難しいと連絡を受けた H さんは、迷わずご両親を引き取って、在宅で療養することを選択したといいます。それは、ご両親の希望もありましたが、仲が良く常に一緒に行動する両親を見て、「離れて生活させることが想像できなかった」とのこと。ただ、医療・介護の制度を熟知しているわけではなく、若干の不安はあったそうです。

しかし、ケアマネジャーへの相談を通じ、サービス調整や福祉機器レンタルなどの手配が行われ、車椅子生活で最大の懸念だった医療受診も、訪問診療をしていただけるかかりつけ医が見つかり、あっという間に生活環境が整い、「とても心強かった」といいます。在宅生活には当然苦労はあったものの、家族の協力や多職種による連携・支援により安心して過ごすことができました。

平成 27 年 6 月にお父様が亡くなられるまで在宅療養は 1 ヶ月間でしたが、「本当に大切な時間だった」と H さんはいいます。晩年は話すことも出来なくなっていたものの、最後は家族に対して「ありがとう」と口が動いているようだった」とお母様と当時を思い出しながら語っていただきました。



在宅療養時の  
お父様

### 住み慣れた地域や家庭で、いつまでも自分らしい暮らしを続けたいと思っている皆様へ

在宅療養生活の実現には、家族の理解や協力のほか、かかりつけ医への相談や在宅サービスの導入が必要となります。在宅医療・介護連携に関する相談は、下記の相談窓口へお気軽にお問合せください。

#### 【在宅医療に関する相談窓口】

- 入院していない場合・・・かかりつけ医、高年福祉課、一宮市地域包括支援センター
- 入院している場合・・・病院主治医や医療相談室

※市や医師会ウェブサイトにも取り組みの状況が紹介されていますので、ぜひご確認ください。